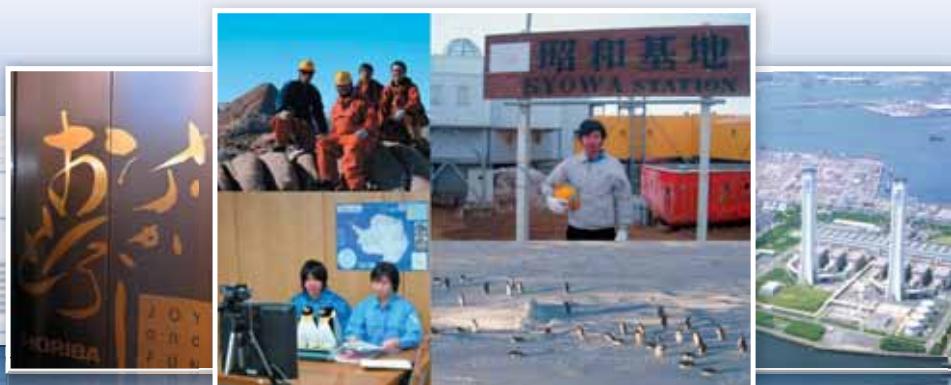


ステークホルダーの皆様とともに

分析・計測事業で持続可能な社会を築く



詳細データはWeb版でサーチ!

<http://gaiareport.horiba.com/ja>

おもいを結集し、分析・計測技術で社会に貢献する

分析・計測技術は環境、健康など生活の質の向上に不可欠なツール

私たち HORIBA の事業の根幹は分析・計測技術の提供です。一般の皆様は、「分析・計測」などというと、日常生活とはあまり関係のない分野のように思われるかもしれませんが、実は私たちの暮らしに密着して活躍しています。

例えば、世界中の自動車メーカーはクリーンな排ガスを追求し、次世代エンジンの開発を進めています。ここでは必ず排ガス中の有害物質の量、燃費効率や発電効率を把握しなければなりません。ここで、当社の自動車排ガス測定装置やシステムを使っていただいているのです。

環境問題だけでなく、エネルギーや健康、安全など、私たち人類はさまざまな問題を抱えています。その解決・改善の過程において「分析・計測」を必要としない分野はおそらくないでしょう。現に HORIBA の分析・計測機器は、環境保全、医用、研究開発など、非常に幅広い分野で活用されています。加えて、あらゆる機器製造プロセスにも導入され、産業の土台を支えています。このように「技術」や「製品」を通して、持続可能な社会の構築、人々の QOL (生活の質) 向上に貢献できていることは、私たちの何よりの誇りであり、またそのこと自体が当社の CSR 活動の根本でもあります。

お客様のご要望に“おもい”で応えたい

私たちの製品を育てているのは何よりお客様です。ユーザーの皆様のご要望、要求こそが、HORIBA の分析・計測技術を進歩させる原動力といえます。「こんな環境で使いた



株式会社 堀場製作所
代表取締役会長兼社長

堀場 厚

い」「これだけの精度で測定したい」……、お客様からは日々さまざまな声が寄せられます。そうした目の前の課題を一つひとつクリアしていくこと、また同時にニーズを先取りして、地道に基礎研究を行っていくことが、技術の革新、さらにその先にある産業の発展につながっていくのです。

HORIBA には、「より良い製品を届けたい」「技術で世界をリードしたい」という“おもい”を持った社員が集まっています。そして、“おもい”を“おもい”のまま留めておかず、具現化することに最も力を注いでいます。1997年から現在まで、私自身が責任者を務めている「ブラックジャック・プロジェクト」はその最たるものです。トランプのブラックジャックにちなんで、「21」世紀に最強の会社となるべく立ち上げたこの活動は、社内 LAN 上に構築されたフォーラムで、毎日同時にほぼすべての活動がレポートされています。私自ら月ごとに進捗を確認し、“おもい”の詰まった活動を毎月1、2件表彰して“おもい”の実現を後押ししています。

2008年は全世界の HORIBA グループのあらゆる現場から、1,000件以上の提案がなされ、「5日生産へのチャレンジ (業務効率向上)」「自己実現と業務の山で自分を叫ぶ (開発過程管理・人材育成)」など、組織・世代の枠を越えたユニークな改善活動が数多く実践されています。活動の成果として私が肌で感じているのは、当社が個人レベルで日々改革に取り組む気風の根付いた真のイノベーション企



業になりつつあるということです。地道な取り組みが緊密に集積し、HORIBA を活動的で筋肉質な体質へと日々進化させています。

「創造力」を発揮し、持続可能な社会の実現に貢献

よく世間では「人」「モノ」「カネ」「情報」の4つを「経営資源」という言い方をしますが、少なくとも HORIBA にとって「人」は最も大切な財産です。「おもしろおかしく」という社是を土台にして、社員一人ひとりが“おもい”のベクトルを合わせることで、ステークホルダーのご要望やご期待に添えていくことが当社の使命であり、CSR への取り組みそのものだと考えています。

その意味で、経営をあくまで立場としては、社員が伸び伸びと成長できる場の提供を含め、“人財”の教育にもいっそう力を入れていかなければなりません。世界シェアナンバーワンの製品を持ち、各事業分野でトップランナーをめざす HORIBA にとっては、研究開発においても、製造や販売においても、これまでなかったものを生み出す「人間の創造力」が不可欠だからです。

分析・計測技術は、これからの社会、そして地球環境にとって、ますます重要になっていくに違いありません。そして HORIBA は、そのさらなる可能性をしっかりと引き出せる企業であると考えています。

今後とも、変わらぬご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



社員とともに

おもしろおかしく

HORIBAの社是。人生の満足度を高め、よりおもしろおかしく過ごすために、人生の最も活動的な時期を費やす仕事にプライドとチャレンジマインドを持ち、エキサイティングに取り組もうというおもしろさを示している。



HORIBA Brand Book (ブランドブック)

社是の精神やHORIBAスピリットを長く伝えるために制作されたのが、この『HORIBA Brand Book』。「何がHORIBAブランドを作り上げ、それが私たちの日々の活動とどうかかわっているのか」を考えるきっかけになる言葉が日本語・英語・フランス語・ドイツ語・中国語・韓国語の6カ国語で併記されています。全世界のHORIBAグループに加わる人すべてに手渡された、いわばHORIBAのバイブルです。



Black Jack Project (ブラックジャック・プロジェクト)

社員の意識と行動の変革活動。1997年にプロジェクトを発足し、2007年には10周年を迎えました。活動はさらにステップアップし、改善や改革にとどまらずHORIBA流マネジメントのひとつとして、スピリットの醸成、人材の育成、組織の活性化など全てのビジネスの基盤として世界のHORIBAグループに展開しています。



オーナーとともに

オーナー（株主）・投資家の皆様に対して、適正な利益の分配を行い、公正な情報公開と双方向コミュニケーションの活性化をはかって経営の透明性を高めています。



定時株主総会後の懇親会の様子 (2008年3月)

サプライヤーとともに

HORIBAの事業活動は、生産に必要な原材料・部品などの取引先をはじめ各分野で事業を営んでおられる多くの人々の協力と支援を得てはじめて成り立っています。私たちは、物品・サービスの調達にあたり、国内外の幅広い取引先との信頼関係を大切に、相互に切磋琢磨します。



協力会社の皆様を招いた年賀交歓会の様子 (2009年1月)

南極観測にHORIBAの分析技術を

第49次南極地域観測隊として、HORIBAの分析装置とともに南極に滞在した科学システム開発部の青山朋樹。厳しい自然環境での任務は、青山隊員本人とHORIBAに何をもたらしたのか。約一年間の観測の記録と昭和基地での生活の一部を紹介する。



より精度の高いデータを求め エアロゾルを南極で観測

南極では息を吐いても白くならない——。みなさんは、この不思議な現象をご存知だろうか。そもそも息が白くなる現象は、呼吸に含まれる水分が、空気中に浮遊するエアロゾルに凝集することで起こる。エアロゾルとは、空気中の微小な液体や固体の粒子のこと。つまり、息が白くならないのは「南極の空気にチリなどが含まれておらず、非常に澄んでいる」ということの証明なのである。

「南極へ来て、はじめに試したのが息を吐くことでした」

そう語るのは科学システム開発部の青山朋樹だ。彼が南極観測隊の隊員として、現地に降り立ったのは、2007年12月19日。「吐く

息が白くならない南極」は、大気環境の変化を測定するのに最適な地域だった。青山隊員の任務は、まさに南極地域でのエアロゾルを観測することだ。エアロゾルは近年、地球温暖化や大気汚染のメカニズム解明に有効とされ、研究が進められている。これまでは大気のサンプルを日本に持ち帰っていた。今回の現地調査では、より信頼性の高いデータを収集できる。HORIBAにとっても、たいへん意義のある派遣観測である。

エアロゾルの観測には、HORIBAのXGT-5000WR（蛍光X線分析装置）とDP-1000（パーティクルアナライザー）が使用された。エアロゾルは火山、海洋、陸地から自然発生したもののほか、人間の活動により生成されるものまで、さまざまな種類が存在する。装置による元素分析で、その発生源を特定でき

るのだ。

「分析の結果、日本と南極ではエアロゾルの数値に2、3桁の違いがありました。南極では人為由来の元素がほとんどありません。例外として風向きにより、昭和基地の発電機の排出するガスを吸引し、C（カーボン）を検出することはありました。基地周辺のエアロゾルは、海塩成分や雲核になりやすいDMS（硫化ジメチル）が主成分だといえるでしょう」

今後の課題は、濃度変化のモニターと、気象データを組み合わせることで、エアロゾルの輸送過程を明らかにしていくことだ。

「雪と氷の大陸」の自然と 昭和基地での隊員の生活

「責任の重い任務でしたが、南極での越冬

生活には楽しみもありました。オーロラをはじめ、南天の星、太陽が昇らない極夜、激しいブリザード、ペンギンやアザラシの生態を間近で観察できたことは貴重な体験でした」と青山隊員。

昭和基地での一日は、朝食から始まり、午前の仕事、昼食、午後の仕事、夕食、ミーティング、自由時間などで、国内の生活、職場での活動とさほど変わらない。違いといえば、交代で24時間の気象観測、オーロラ観測、無線を聴く通信業務を行っている隊員がいることなどだろう。当直も重要な仕事のひとつで、隊員が交代で共有スペースの掃除や配膳、後片付けなどを行っている。

また、気分転換や運動不足解消のためのレクリエーションも重要な時間だ。金曜日には食堂で映画の上映がある。娯楽室にはビリ

ヤード台やダーツ、各種楽器が置いてあり、休日や夜、隊員はこの部屋で過ごすことが多い。そのほか、サッカー、バレー、卓球などのスポーツ大会、花見や誕生日会を開催し、日常生活を楽しむよう工夫している。

専用衛星回線（TV会議システム）を利用して、日本の小・中学生、高校生たちに地球環境や南極観測に興味を持ってもらうための『南極教室』では、青山隊員が観測隊員の仕事や昭和基地の屋内外の様子などを紹介した。また、各隊員が専門分野を講義する『南極大学』にも参加。観測業務以外でも、さまざまな活動に積極的に取り組んだ。

分析技術の可能性にける HORIBAの新たなチャレンジ

「南極の自然を体験できたことをはじめ、

これまでの人生でこれほど印象に残る一年はありませんでした。やはり、この美しい地球を守っていかなければならない——。今回の経験が、仕事や自身の夢への大きなモチベーションになりました」

従来のサンプルを持ち帰っての測定や分析と異なり、分析機器と技術者を派遣する試みはHORIBAとしても『分析技術そのものを提供する』という初の取り組みであり、地球環境への貢献という意味でも、意義のあるチャレンジだった。数値から地球環境を考えるには、正確な分析結果を連続収集し、データを蓄積していかなければならない。大気循環システムの解明は、地球環境改善の糸口になるはずだ。今回の結果をもとに、地球環境科学の研究にこれまで以上に貢献できれば、というのがHORIBAの願いである。

お客様とともに

対談 東京電力 藤井 真さん × 堀場製作所 生田卓司

“絶対に発電をとめない”

安定した電力供給への強いおmoi

現代社会において、欠かすことのできない電気エネルギー。日々、当たり前のように使用している電気は、言うまでもなく電力会社の努力があってこそ、私たちの手元に届いている。横浜地区の電力供給を担う横浜火力発電所の電気制御メンテナンスグループに所属する藤井真さんと、HORIBAガス計測開発部門の生田卓司の2人が、仕事に対するおmoiや夢、また分析・計測機器メーカーがこれから果たすべき役割などについて語り合った。



東京電力株式会社
西火力事業所 保修部
電気制御メンテナンスG
横浜火力発電所
電気制御メンテナンスG駐在
ふじい まこと
藤井 真
1994年入社。2000年よりメンテナンスの業務に従事。08年3月エンジニアの最高位である「S級」を取得。ユニホームの腕の赤いラインが「S級」の証。

株式会社堀場製作所
ガス計測開発部
プロセスチーム
環境計量士（濃度関係）
おいだたくじ
生田卓司
1990年入社。主に煙道排ガスを中心としたガス分析装置の開発に従事。



電力マンとしての使命と電気づくりへの愛着と誇り

生田 電気は、われわれの暮らしを支えるエネルギーとして、なくてはならない存在です。東京電力の方々とはどのようなおmoiで、お仕事に取り組んでいるのでしょうか。

藤井 私たち電力マンの使命は「電力の安定供給」です。みなさんに電気を安心して使っただけで、「豊かな生活と快適な環境への実現」に貢献することが何よりの務め。例えば環境保全の取り組みについていえば、横浜火力発電所では、窒素酸化物（NOx）等の大気汚染の要因となる物質の排出を厳しくチェックし、使用した水についても、厳格な自主管理目標を設けて浄化を行っています。

生田 なるほど。電力の安定供給というのは、具体的にどのようなことを指すのでしょうか。

藤井 一言でいうと「停電をさせない」ということになります。こう言うと「なんだそんなことか」とお感じになるかもしれませんが、それは「停電はあってもすぐに復旧するもの」というイメージが強いからだと思います。例えば諸外国と比べて非常に停電率が低い。データを見ても1年間の平均停電時間は約4分で、米国と比べると10分の1以下。これは世界最高レベルの数値です。安定した電気

を作り続けるには、かなり高い技術が必要なのですが、そのことはあまり知られていません。日本の停電率の低さは、これまで培ってきた技術の集大成といえるのです。

生田 たしかに普通に生活していると、停電がないのが当たり前という感覚ですね。

藤井 電気は、みなさんの生活のなかでは水や空気と同じような存在ですよね。コンセントにつなげばすぐに使える。「あって当然」なんです。それ自体、社会のインフラとしては素晴らしいことです。ただ、電気を作っている立場からすると、少し寂しい気もします（笑）。

生田 われわれが当然のように使っている電気も人の手によって作られている。電力会社の方から直接お話を聞くと、そのありがたさを改めて実感するものがあります。

藤井 どこの会社の方たちも、自分の作っている製品にはおmoiや愛着があると思います。それはわれわれ電力マンも同じなんです。地球上のエネルギーにおいて、電気エネルギーは、今後もまだまだトップランナーであり続けるでしょう。そういう自覚を、われわれ電力マンは持っています。それが絶対に停電を起こさず、安定して電力を供給し続けるという使命感や意気込みにつながっているのだと思います。

機器を最高の状態に保つそれを実直に続けていく

生田 藤井さんの具体的な仕事についても教えてくださいいただけますか。

藤井 現在、私は電気制御メンテナンスグループに所属しています。そこでの役割は、圧力や温度の計測機器、煙道排ガス分析装置、水質分析装置などのメンテナンスです。さまざまな機器や装置は、通常は問題なく動いていますが、やはり機械モノですから調子が悪くなることもある。そういう時の調整も私の仕事です。私たちのグループには「計測」と「制御」のふたつの役目があります。計測ではHORIBAさんからも高品質の機器を多く供給していただいています。制御は目的の値にいかにして自動制御するかが命題になります。そのために二重化、三重化で数値を測るシステムを導入しています。航空機などの制御システムも三重化にして、精度と信頼性を高めています。考え方は同じです。

生田 発電所が安定して稼働するための、まさに緑の下の力持ちですね。

藤井 そうですね（笑）。それともうひとつ、火力発電では効率を上げることも重要な課題です。そのためにも発電に関わるすべての機器を最高の状態に保っておかなければなりま

せん。日々きめ細かくメンテナンスをしておくという仕事は、地味な作業の繰り返しですが、実直に続けていくことが大切だと思います。

生田 発電所の機器を最高の状態に保つ——。そのことに貢献できることが、私たち計測機器メーカーの喜びです。藤井さんの仕事へのおmoiや夢についてもお話いただけますか。

藤井 停電をさせないように、機器を保持するのがメインの仕事ですが、それだけでは発展性がありません。例えば諸外国に比べ停電率は低いですが、それでもゼロではない。やはり努力すべき点はあると思うのです。そういう意味では新しい取り組みを模索していく必要があると感じています。ただ私たちの仕事は、新しい製品を開発して、会社の売上げを何倍にもするというものではありません。メーカーのエンジニアだと、やはりそのような甲斐もあるではありませんか。

生田 やはりそういう面もありますね。ただ私の場合は、煙道排ガス分析装置を東京電力様で使っただけで、それが環境監視を担っている。安定した電力の供給に役立っている。そのこと自体に、とても責任と誇りを感じています。世界最高水準にある日本の電力会社が電力の質の向上を追求されている。その要求に応えることで、私たちも鍛え上げられました。その結果、HORIBAの煙道排ガス

分析装置は世界から高い評価を受け、電力の安定供給や環境監視に役立つことができている。私たちからすると、お客様に育てていただいているというおmoiが非常に強いのです。

「発電所を監視する目」それが計測機器

生田 今後、私たちHORIBAがサポートしていけることとして、具体的にどんなことがありますか。

藤井 例えばメンテナンスをしても、トラブルの原因や解決策を見つけれないときがあります。試行錯誤を繰り返すのですが、そういう時に、直接設計の方とお話すると、スムーズに解決することがあります。その辺りのダイレクトでスピーディなコミュニケーションをこれからもお願いしたいです。実際、HORIBAさん是对応が早いので助かっています。それに誠実で非常に探究心が旺盛な方が多いので、安心感もあります。もうひとつお願いがあるとすれば、周辺機器を含め、計測機器そのものが「頑丈である」ことです。精度に加え、発電所の過酷な環境に耐えられるかどうかは、計測機器の重要なポイントです。この辺りをこれまで以上に磨いていってほしいと思っています。

生田 煙道排ガス分析装置は、一年中ずっと休みなしで動いていますので、「現場で長生きできるタフな機器づくり」は、私たち開発部門の重大なテーマです。一昔前は、計測も手分析などで行い、現場の苦勞が絶えなかったと聞いています。私たちの時代には精度の高い機器がすでにあるわけですが、それは諸先輩方の努力の積み重ねがあったからです。私たちの世代にも、いま以上に発展させる部分がかきとあると信じています。こうやって現場で実際に使われている藤井さんの生の声

を聞くのは、私たちにとってもたいへん勉強になることが多く、感謝しています。**藤井** 計測機器は、いわば「火力発電所を監視する目」です。隅々まで正確に見ていかなければなりませんので、精度と信頼性、タフさなどについても、ハイレベルなものが求められます。これからもご協力をよろしく願います。**生田** こちらこそ、今後もお客様の要求にお応えすることで、電力の質の向上のお役に立ちたいと思います。

“お客様に育てていただきました”

社会的動向 ▶ 1960年代、日本は、高度経済成長とともに、人々の生活が豊かになりました。その反面、工業に伴う工場からのばい煙などによる“公害”が深刻化し、人々の生活を脅かし、大きな社会問題とされ、政府は公害対策として、固定発生源から排出される、ばい煙についての規制を開始しました。特に、ぜんそくの原因である、硫酸酸化物の低減は、最も重要視されており、硫酸酸化物をはじめとする、煙道排ガス測定のニーズが高まりました。

お客様からのご要望 ▶ **当時煙道排ガス分析は、手分析が主流。手分析より簡便で熟練度を要さず、また、煙道排ガスを常時連続して安定して測定する方法がないか？**

■ 煙道排ガス分析計として、メンテナンス性、長期安定性、精度に優れた、NDIR法（非分散赤外線吸収法）を採用。「ENDAシリーズの開発」をスタートしました。

■ 当時、排ガス中に含まれる硫酸ミストなどの腐蝕性ガスがもたらす配管部品の腐蝕による詰まり、また、測定セル内面の汚れや腐蝕の原因とするゼロドリフト（ゼロ点がずれること）の問題が発生。これに対しHORIBAは、効率よく硫酸ミストを捕集する“ミストキャッチャー”を開発しました。また、流体変調方式（クロスモジュレーション法）を開発、採用することで、煙道排ガス測定では致命的であった、ゼロドリフトの問題を解消し、HORIBAの煙道排ガス分析装置の基礎を確立しました。

HORIBAの計測機器は、いわば、火力発電所設備の設備を監視する目。火力発電所の使命である、電力の安定供給を支えています。世界最高レベルの日本の火力発電所の技術の進歩に伴い、煙道排ガス分析計も改良が必要です。HORIBAの分析計はお客様とともに、進歩し続けています。

社会とともに

社会、生活のあらゆる場面に「正確な情報」を提供

万学の祖・アリストテレスは「すべての学問は“発見に対する驚き”から始まる」と言ったとい
ます。その「発見」につながる情報を抽出し、正確な値として知らせるツールこそが、まさに私
たちが開発、提供している分析・計測機器です。科学の最前線での発見にとどまらず、環境、健
康のための正確なデータの把握、産業プロセスの改善や省エネルギー化など、社会、生活のあ
らゆる場面で分析計が求められています。

	● どんどころで	● どんなもの	● 何を分析して	● 何をするために	● こんな役に立っている
HORIBA Automotive Test Systems 自動車排ガス計測システム  MEXA-7000	自動車メーカー 公的研究機関	エンジンの排ガス	一酸化炭素や 窒素酸化物 炭化水素など	エンジンの 研究や開発 排ガス規制の 認証試験	大気への排ガス 影響の抑制・ 低減を支援する
HORIBA Scientific ラマン分光計  LabRAM ARAMIS	最先端のバイオ テクノロジー 研究所	ナノマテリアル	カーボンナ チューブや 分子1個ずつ	未知の性質や 挙動を知る	新技術の開発を 支援する
HORIBA Process & Environmental 大気環境測定装置  APOA-370	国や自治体	町の空気	大気中のオゾン	大気環境の 状態を監視する	大気汚染のない きれいな町での 生活を支援する
HORIBA Medical 自動血球計数装置  Pentra DX120	医療機関	患者の血液	血液中の成分	健康状態を 迅速に調べる	健康な生活の 維持を支援する
HORIBA Semiconductor 薬液濃度モニタ  CS-100F1	半導体メーカー	半導体製造工程 での洗浄液など	薬液の濃度	洗浄液の無駄を 省き、適正に 薬液を使う	製品の歩留まり 向上を支援する

統合マネジメントシステム (IMS)

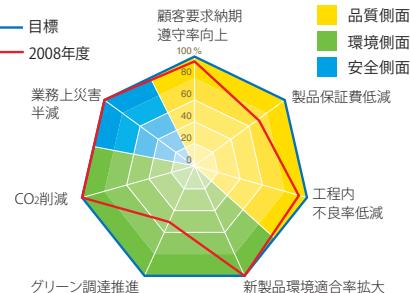
HORIBAグループでは、品質ISO9001、環境ISO14001、労働安全衛生OHSAS18001を統合したマネジメントシステム (Integrated Management System : IMS) の運用に、医療機器のための品質ISO13485を加え、スパイラルアップを推進。エネルギー、健康、環境、安全の分野において、「快適で幸福な社会」を支える製品を提供しています。

(株)堀場製作所でのIMS運用は2004年に開始しており、現在、グループ企業においても2010年度までにIMSの構築、運用を計画しています。2008年度、国内グループ会社では、



4月に(株)堀場エステックがIMSの認証を取得し、2009年1月には(株)堀場アドバンステクノが労働安全衛生OHSAS18001の認証を取得。海外

■ IMS目標達成度レーダーチャート



グループ会社についても、2010年までに主要生产拠点の全てで品質ISO9001および環境ISO14001に認証取得を完了予定です。

コンプライアンス推進体制

HORIBAグループでは、ブランドの価値を向上し、グローバルに活動するため、独自の体制を定めて、コンプライアンスの強化、リスクマネジメントの推進に取り組んでいます。

具体的には、「ホリバコーポレートフィロソフィー」「コンプライアンス管理規程」「倫理綱領」を制定してコンプライアンスにかかわる体制強化を図るとともに、違法行為の未然防止と

早期発見・是正のシステム「内部通報制度」を導入。また、コンプライアンスに関する啓発や推進施策についての審議・決定、内部通報への審理・答申、是正勧告などを行うコンプライアンス委員会も設置しています。

大気常時監視自動計測器 (大気汚染監視装置) に関する排除措置命令等について

2008年11月12日(株)堀場製作所は、官公庁発注の大気汚染監視装置の入札において、独占禁止法に違反する行為を行っていたとして、公正取引委員会から排除措置命令および課徴金納付命令を受けました。

これを受けて、HORIBAグループでは再発防止に努め、これまで以上にコンプライアンスの徹底を推進。お客様、オーナーなどの皆様からの信頼回復に、全社一丸となって取り組んでまいります。

HORIBA

Explore the future

株式会社 堀場製作所

〒601-8510 京都市南区吉祥院宮の東町2

TEL : 075-313-8121 (代表)

URL : <http://www.horiba.co.jp/>

※お問い合わせは、コーポレートコミュニケーション室まで

● ホームページでの開示情報

環境活動 → <http://www.jp.horiba.com/about/hor/environment>

IR情報 → <http://www.jp.horiba.com/ir/>

Gaiapress → <http://www.jp.horiba.com/sensorium/>

Gaiareportとは

Gaiaはギリシャ神話に出てくる大地の繁栄と自浄をもたらす地球の母なる神です。分析計・環境計測機器メーカーであるHORIBAグループは、分析・計測事業で持続可能な社会の構築に貢献したいと考えています。この決意を込めて、当社のCSRのコミュニケーションツールとしてのホームページを「Gaiapress」、CSR報告書を「Gaiareport」とそれぞれ命名しています。HORIBAは分析計測の目で地球環境を見つめています。

新しいGaiareportは紙の使用を大幅に削減しました

今年から『Gaiareport』はリーフレットになり、従来の冊子形式から比べて大幅に紙の使用を削減することができました。内容は堀場製作所のCSR活動のエッセンスをぎゅっと濃縮し、より多くの方々の手にとっていただけるものになっています。

くわしい情報はWeb版データ集で

CSR活動の詳細なデータはWeb版として公開され、より便利に使いやすくなりました。興味のあるキーワードやカテゴリーから検索すると、関連する情報をまとめて閲覧することができます。

くわしくはWeb版データ集のページへアクセス! <<http://gaiareport.horiba.com/ja>>



Printed in Japan 発行 : 2009年3月